



HPで活動の様子を  
紹介しています。

# 若 鮎



桑取小校庭斜面が崩壊



損壊した大湫橋(向こう)と仮橋(手前)



復旧した西戸野橋の渡り初め式



県道が埋まり道なき道を  
桑取へ進む佐藤市長視察団

## 9月は「防災月間」～保小中合同避難訓練をします～

校長 岩片 和義

関東大震災が起きた9月1日は「防災の日」。そして9月は「防災月間」です。しかも今年は、関東大震災が起きた1923年からちょうど100年です。「災害は忘れたころにやってくる」と言いますが、学校でも家庭でも地域でも、防災意識を新たにしておきましょう。

学校では、毎年3回、避難訓練をしています。当地では毎年9月の訓練を保小中合同で行っています。今年は9月26日で、今回は県から「土砂災害警戒情報」が発表され、市から「避難指示」が発令されたという想定（警戒レベル4相当）です。市のハザードマップによれば、保育園と小学校の川沿い、中学校の西側と南側の道沿いは「土砂災害警戒区域（急傾斜地の崩壊）」であり、特に中学校の西側と南側の急傾斜地の一部は「特別警戒区域」にも指定されています。もし、中学校西側の傾斜地が崩壊すれば、小学校正門前の県道が土砂に埋まり、交通が遮断され、生活にも大きな影響が出ると予想されます。

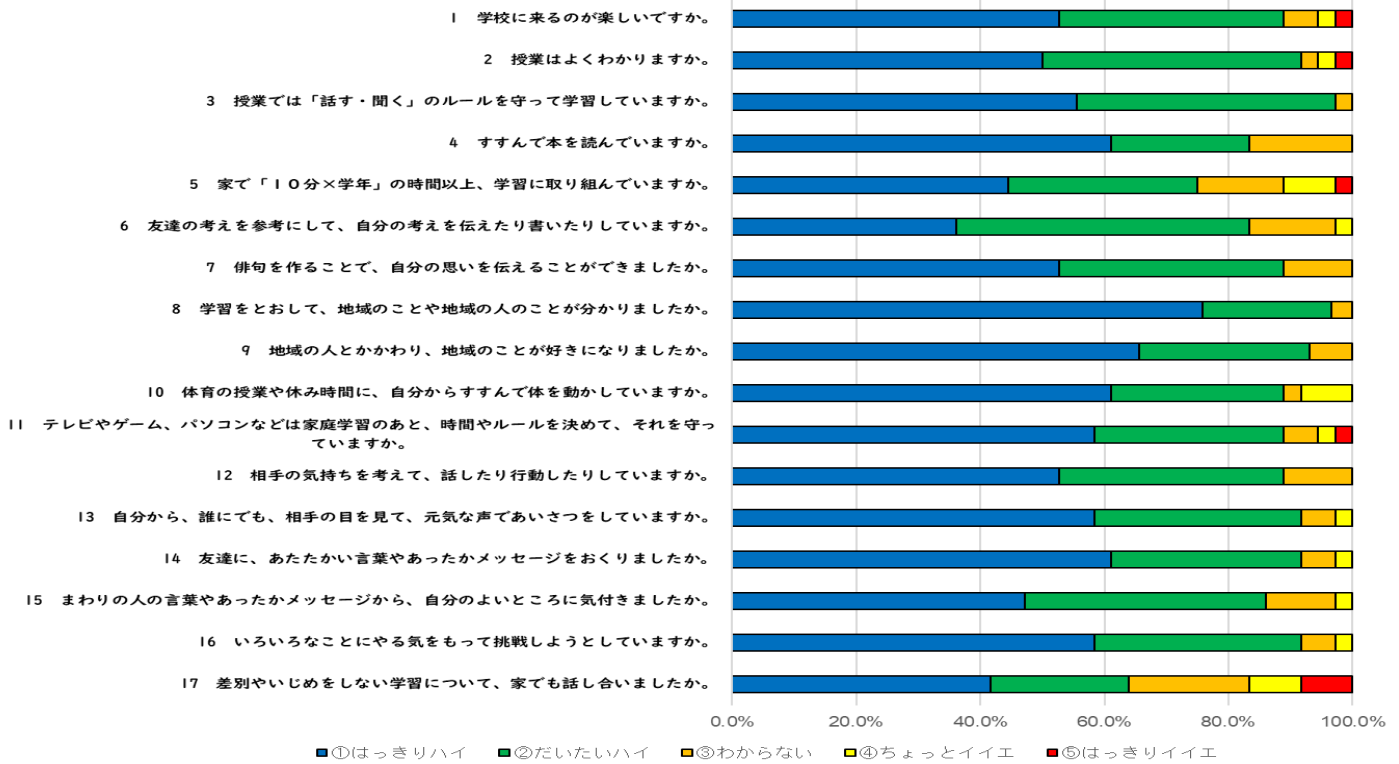
今回の訓練では、中学校の急傾斜地が崩壊すると生徒の避難自体が困難になるため、その前に早めに保小中が連絡を取り合い、想定されるすべての災害に対して安全であり、一定期間の滞在（避難）を想定した「指定避難所」である小学校に避難するというものです。また、防災についての意識を高めるために、各地域ごとにわかれて安全マップを基に危険箇所や避難場所も確認します。

上は、昭和40年9月の水害、土砂災害の写真で、被害は直江津一帯に及びました。子どもたちにも提示し、他人事ではないことを伝えたいと思います。

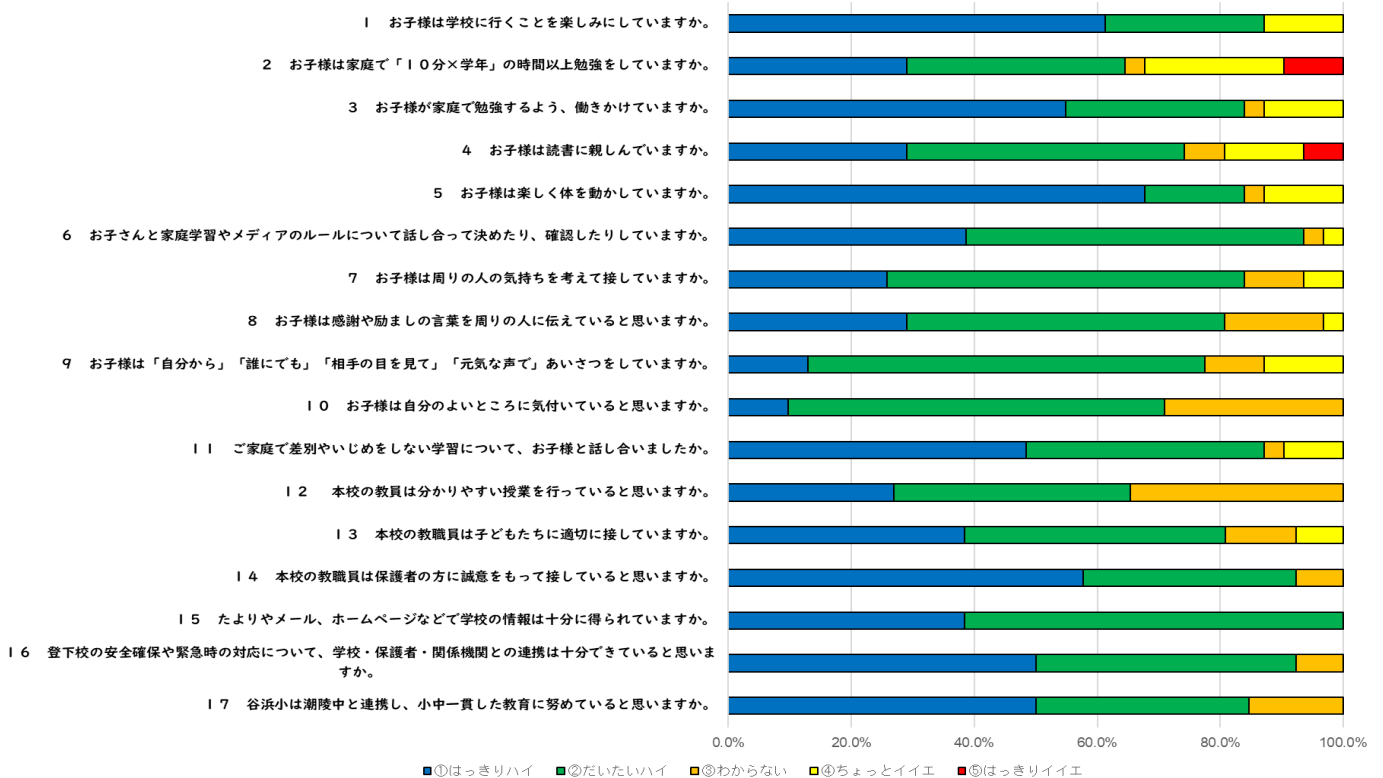
# 前期学校評価について

7月に実施した保護者アンケートへのご協力ありがとうございました。結果がまとまりましたのでお知らせします。

## 1学期児童アンケート結果



## 1学期保護者アンケート結果



## 「学び」について

今年度の各種学力検査の結果から、当校の児童は、文章等から情報を正確に読み取る力と自分の考えを筋道立てて表現する力に課題のあることが分かりました。一方、学び合いに関する児童の肯定的評価は80%を超え、少人数であるため発言機会が多いことや、ホワイトボード等を活用した意見交流の機会を設定した成果と考えます。

2学期は、各教科の授業において、資料を正確に読み取って説明する活動や、自分の考えを筋道立てて表現（話したり書いたり）する活動を意図的に取り入れます。その際に、ペアやグループで伝え合うことを大切に、友達の意見を聞いて考えを広げたり深めたりすることができるように指導します。

家庭学習については、意欲的に取り組む子とそうでない子の差が大きいです。これは、中学校区全体の課題です。よいノートを紹介するなど、子どもたちの意欲が高まるような工夫を心掛けます。ご家庭のご協力をお願いします。

## 「健康」について

休み時間に積極的に体を動かした児童の割合が88.9%と高く、放課後にも体育館や校庭で元気に遊ぶ姿が見られます。また、メディア利用に関する肯定的評価も、児童88.9%、保護者93.5%と高い割合でした。健康週間の取組の成果であり、ご家庭のご協力に感謝します。

2学期は、校内持久走記録会等に向け、学習カードを活用して各自の頑張りを可視化し、意欲の向上を図ります。また、第2回学校保健委員会では、親子でルールを守ってメディアを使用することの大切さを学び、よりよい実践につながるようにします。ご家庭では、健康週間だけでなく、日常的にめあてやルールを守って生活できるように、お子さんへの働きかけをお願いします。

## 「心」について

相手の気持ちに配慮した言動についての肯定的評価は、児童、保護者共に8割を超えました。また、友達のよさが分かり、自分のよさに気付いた児童の割合も91.6%と高いです。これは、学校行事と関連させた縦割り班での「あったかメッセージ」交換の取組や、日常的に教室で互いのよさやがんばりを認め合う場を設定した成果と考えます。

2学期も、休み時間の取組や掲示板の活用を工夫し、縦割り班の活動の活性化を図ります。また、小中合同文化祭等の行事と関連させたメッセージ交換も行います。さらに、11月には部落問題学習・人権教育の授業参観を予定しています。これを契機として、ご家庭でも差別やいじめをなくすことをテーマに、お子さんと話し合ってみてください。

あいさつに関する児童の肯定的評価は9割を超えましたが、保護者は8割に達しませんでした。4月当初に比べると、学校でのあいさつはよくなっていると感じます。あいさつは、まずは大人が手本となることが重要と考えます。家庭でも、学校でも、地域でも、大人から積極的に明るいあいさつを心掛けましょう。

## 自由記述について

職員による児童への指導の仕方について、理由を十分に聞かずに一方的な指導をするのではなく、子どもたちが納得し、反省できるように教え諭してほしいという趣旨のご意見をいただきました。

このご意見を真摯に受け止めたいと思います。たとえどんなに必要な指導であったとしても、子どもの心に届かなければ意味がないため、指導の仕方は非常に重要です。子どもの側に理不尽に叱られたという思いが残るだけでは、教育効果はないからです。

このような問題は、ケースバイケースであり、具体的な状況の中で解決していくことが重要と考えます。お子さんの話を聞いて「あれ？」と不信に思われた際は、その直後に、ご遠慮なく学校（教頭）までお問い合わせください。お子さんを中心に、学校と家庭とが連携して教育にあたる大切な機会としたいと思います。

一方で「困ったことに対して迅速丁寧に対応していただいているおかげで、本人も親も安心して過ごせています。」というご意見もいただきました。保護者の皆様からの温かいお言葉は、職員にとって何よりの励みとなります。ありがとうございます。今後も、丁寧で誠実な対応を心掛けます。2学期も、ご理解ご協力のほどよろしくお願いいたします。